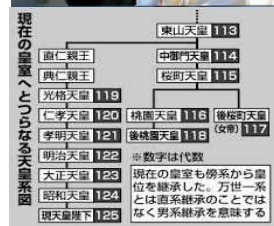


## ババボボーの極み(1)

ババボボーのオオカミ爺が、遙か5000Km彼方のチェンマイから、常々警戒警報を鳴らしているにも拘らず、痴愚・魯鈍に陥った無防備国の住人は、安穩と暮らしているようだ。豊かさは感じないまでも、取りあえず喰うに困らない、これと云って欲しいものもない、国際情勢・海外情報も、自分にとって直接どうって事がある訳でもないスタンスだ。

「そう見えているかも知れないけど、案外そうでもない」という人の話は殆んど聞こえて来ない。政治・経済・社会問題は、個人の力ではどうする事もできないから、何もしないし、興味・関心すら持たない。先月の即位祝賀パレードでは、沿道に12万人が集まり、中継を見た国民は、数百万か数千万人だったろう。時折聞こえて来たのが「雅子さまー」という黄色い声だった。

『皇統の安定的な継承』を建前とした、女系天皇論が取り沙汰されているが、こんなものを持ちだすこと事態、『不敬極まりない』と云うことを誰一人として思いも考えもしていない。ましてや、保守を自認しながら、女系容認などもっての外で、「私は似非保守です」と自白しているようなものだ。この問題は、少しも難しくない。歴代女性天皇はおられたが、女系天皇は一人も居られない。代々父系で継承されて来て、現天皇の周りに男子が居なければ、数代前に遡っても男系で継承するものと決まっている。仮に愛子天皇待望論を飲んだとしても、その皇子は天皇にはなれないというのが天皇家の決まりで、これを変える事などあってはならないと云う事だ。



「無礼討ち」がまかり通っていた時代、無礼を働いた者は、切り捨て御免で正当化されていた。タイ国では、今でも不敬罪が周知徹底している。『女系天皇』等というありえない制度を持ち出すこと、口にすること事態、不敬罪に問われ臭い飯を数年喰わなければならないものと、無防備国の住人には考えも及ばないだろう。

先月号に少し登場した、ホリエモンの数百倍のスケールで『セブごっこ』をやっているのがソフトバンクの孫正義氏だ。数兆円規模に膨らんだバブル借金がパンクしたら、一文無しでは済まなくなりそうだ。同じ心境に置かれているのが特亜3国の各リーダーで、国でも企業でも個人でも、資金が回っている間は、借金が幾らあっても『金持ち面』を決め込んでいられるが、今月の支払いができなくなった段階で The end。ソフトバンクをはじめ、今期中(来年の3末まで)にデフォルトするであろう国・企業・人には充分注意が必要だ。(君子危うきに近寄らず)

この件で警告を発する【ITビジネスアナリストの深田萌絵】氏の話の間こう。  
<https://www.youtube.com/watch?v=ZWZOPXpKorw> 絶対には買ってはいけないソフトバンク株  
 経済評論家の渡邊哲也氏も同様の警告を発しています。私も同見解です。  
<https://www.youtube.com/watch?v=AmAZd2kOgg4> 「孫正義流」ソフトバンクの未来

50の手習いでパソコンを始め、70の手習いで漸くスマホを手にした、時代遅れのクソ爺でも、若かりし頃は、初任給でYAMAHAの最新オーディオSetを購入し、SONYのウォークマンを聴きながら、音質の良しなしを云々していたものだ。機械や機能は、複雑なものほど面白く興味をそそるものだった。半世紀後の今では、世の中が複雑多岐にわたり各分野の専門化・細分化が進んだ結果、とてついつて行けなくなる毎に(使わない機能に面食らいながら)「シンプル・アズ・ベスト…」位しか云えなくなって来た。そうは云いつつも、時代の変化に対応せざるを得ない観点から、大局観は外さず局地戦で戦う(囲碁に通じる)気構えは何とか維持している。



渡邊・深田両氏共40代の論客で、**事実に基づいた客観的見解**を述べている。(マスメディアが最も苦手とし、回避している分野だ) 深田萌絵氏の注目動画2本を是非ご覧下さい。  
<https://www.youtube.com/watch?v=KEny6VJ9KMo> 暗号技術  
<https://www.youtube.com/watch?v=bShjyDOWHZg> 世界はAI戦争へ向かう【深田萌絵】



世界中が(情報戦争・移民/人権問題・領土紛争などで)混乱している最中、桜の葉っぱも紅葉して散り始めている頃だというのに、『桜を見る会』に誰を招待したかの、名簿をシュレッダーで破棄したたので、もり・かけ蕎麦談義の続編をやっている野党議員はババボボーを極めている。

自民党の役職議員の皇位継承発言に至っては、不勉強も甚だしい。上述したように、今まで有り得なかった(あってはならない則を越えて)『女系天皇』などという言葉、『女性天皇』に便乗させて、「男女平等/民主主義を考えれば答えはでてくる」(二階俊博)「慎重に検討…」(岸田文雄)皇位継承に、男女平等も民主主義も慎重に検討する事など、一つも無いと云う事が全く分かっていない。ババボボーの極みだとしてしっかり認識しておかなければならない。

## ババボボーの極み(2)

2020年度より英語教育を小学3年からはじめることが決まり、18年度より移行措置として始まっているようです。子供の頭は、凝り固まった大人の頭より柔軟で、教え方如何でスーと入って来て、興味・関心が深まればネイティブ並に話せるようになるでしょう。現在の多くの大人たちが中学/高校・通算6年間英語の授業を受けながら話せないのは？

受験英語教育しかやって来なかったからです。全ての教科は受験教育だから、正しい答えを出すためだけに集中し、集中できなかった生徒は落第(不合格)の憂き目に会うという教育が、正しいかどうかを考えれば(考えなくても)間違っていることが明らかです。

はっきり云って、「間違った教育の結果日本人の多くが英語が喋れない」と断言できます。「だったら、どうすれば良いんだ！」と高飛車に問ってくる者には「喋れなくても問題ない！」と切り返します。読者諸兄は流暢に英語が喋れますか？

喋れる人もいれば、全然ダメ！と云う人の方が多いでしょう。全然ダメでも、日本に居て日常生活に殆ど困りませんし、ましてや、タイ語に至っては、喋れなくても全く困りませんよね。

外国語は、必要性や興味・関心度合いに応じて勉強すればいいもので、学校教育に於いては興味・関心を持たせることに重点を置くものでなければならないと思っています。



『間違った教育の根本』が、『受験勉強を教育の名の下に行っている』という処にあります。受験勉強は、訓練であって教育ではありません。頭と要領の良い賢い子は、その事を察知して、一定レベル以上(合格ライン)が何処にあって、そこに到達するにはどうしたら良いかを知って勉強しています。頭と要領の悪い賢くない子(私)は、そんな事とは露ほども知らず、興味・関心を持った好きな科目と、面白くも、何ともない嫌いな科目とを分別し、偏った勉強をやってきました。

最初から、学校は個々の特性や可能性を見出し、教え育む機関としての教育の場ではなく、上級学校進学への受験学習のための訓練校であるという本音を教えてくれたなら、学校で足りない部分は塾に行けと云ったなら、親子共々教育に対する期待と幻想は消え失せ、日本の教育行政そのものも転覆してしまうだろう。本音を隠し続け、転覆しかかっているのが、今回英語の共通一次試験で民間業者による試験結果の導入延期問題が取り沙汰されている事でも明らかだ。

数年前、日本語を勉強したいという近所の小中学生、大学生数人に「取り敢えず、ひらがなの読み書き、発音ができるレベルまで」という事で教えた事があるのは既報の通りです。やはり自分から勉強したいという意欲を持って来た子供たちの吸収力はすさまじいもので、早い子は1~2ヶ月で完璧に覚えてしまい、噂を聞いて親に行けと云われて来た子は3ヶ月経っても覚え切れない状態でした。(教育ではなく、訓練トレーニングですから、自発的意欲の有無が如実に表れて当然です)平易なことばや、文章(小学一年生程度)まではやりましたが、それ以上は、語学学校の営業の妨げになる事を慮って、「はい！ここまで」で終わりました。

その時来られていた中学生が、チェンマイ大学の日本語学科2年生だという事で、嬉しい限りです。今、一人だけ勉強に来られている社会人がいます。この人は、外国人にタイ語を教えている人で、外国人の中に数人の日本人がいて、日本語でタイ語を教えたいという意欲を持って居られます。学生時代、日本語を専攻したものの、日常使わない内にすっかり忘れてしまったので、復習を兼ねて取り組んでいます。私は勉強も仕事も趣味の分野ですから、一緒に愉しんでいます。反日のはずの中国で、日本語学習がブームのようです。以下の動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=GmRdUUUVgSAA> 日語50音の発音和寫法簡單教學！(平假名篇)

<https://www.youtube.com/watch?v=Hd4s7mcGEdY> 日文發音

反日の総本山が中国共産党なら、末寺は韓国・北朝鮮政権である事も周知の通りだが、それぞれの国民の全てが反日ではないという事も、前提として知っておかなければならないだろう。上記の動画の登録人数は159万人で、視聴者数も220万人以上である事からも分かる。(興味が沸いたら関連動画を探してご覧下さい。外国人が苦勞する日本語の発音や音韻が分かります)この動画以外にも日本語学習の動画は数多くあり、親日中国人が増加の一途にあることも事実だ。だからと云って、手放して油断を決め込んでいい根拠とはならないのだが…。



ババボボーの日本人は、日本語がカタコトでも喋れる外国人(特に異性)には全く無警戒で信用し、簡単に騙されるケースが後を断たない。『それと、これとは別！』という節操の無い対応が日本を貶め続けて来た。日本国と日本人をを貶めて来たのは他にもない、ババボボーの日本人自身だったとようやく気づき始めたものの、長期政権を手中にし、甘っちょろい幻想・妄想に逃避しているババボボーは、米中覇権戦争下にある両国を股にかけ、二重スパイさながらに、ファシスト国家の主席を、「国宝としてご招待したい」だの、「日本国民は歓迎する」だのと、絶対やってはいけないトндеモ発言を繰り返している。(どんでん返し秘策は後述)





# 故事・古典に学べば

中国共産党は大嫌いでも、中華料理、歴史書、漢詩、文物、中国の友人は大好きだという人は(私も)少なくない。戦勝国でもない中国共産党を、現在の国力にまで増長させて来た最大の貢献者は、日本政府と、敗戦利得者及び米国のディープステートである事が明らかになって来た。米中対立構造と日中宥和構造を力学的に検証してみよう。

力学的と云っても、物理・科学のように数値で表せるものばかりでなく、心理的・感情的に作用する力学も現存する。日常的には、この力学で何事も行われ支配されていることの方が多いように感じる。おとなしく、素直な良い子(ぶりっ子)が、ある日突然、とんでもない事件を引き起こし、世間を騒がせることがある。「うちの子に限って！」とか「信じられない」とか云っても、起きてしまった「まさか(マジか)」の現実には、否定できないし、取り戻せない。事例を取り上げるまでもなく、この手の事件は枚挙に暇がないほど発生している。何故か？おとなしく、素直な良い子(ぶりっ子)は、実は危険な存在だという認識が欠如しているからに他ならない。習近平主席も、文在寅大統領も、安部晋三首相も、幼少のみぎりには時々の政治状況に翻弄され、子供なりに大変な苦勞をされたようだ。共通しているのが、おとなしく素直な良い子(ぶりっ子)だったようだ。それが、持ち前の強運に支えられ、世渡りの巧みさから、現在の「信じられない」姿に変身し醜態を晒している事から、おとなしく、素直な良い子(ぶりっ子)の本性に潜在する魔性までも垣間見えるし、この手の権力者も多数思い浮かぶだろう。



はい



鬱積したストレス、人には明かせないコンプレックス等、秘めたる負のエネルギー(魔性)は誰もが持っているもので、適度に発散し、転換する術が体得できていれば良いが、何かしらの動機やきっかけで一気に噴出したら、嗚呼、どうにも止まらない、事件を巻き起こすのも、『権力』を弄び『自由』を勝手気まま、やりたい放題、遣った者勝ちにしているユルユル社会が生み出した現象でもある。だからと云って、社会構造を一気に改善する事など誰にもできない。…しかし、平家物語巻第一にあるように『驕れる者は久しからず、ただ春の世の夢の如し、猛き者もついには滅びぬ、ひとえに風の前の塵に同じ…亡じにし者どもなり。』

『力』には、色々な要素があつて、心理的・感情的ばかりではなく、経済力・腕力・説得力・生産能力・表現力・歌唱力・包容力・中には胡散臭い神通力までである。何れにしても、栄枯盛衰が力学の基本であることを故事・古典から学ぶべきだ。すると、今起こっている摩訶不思議な現象や、矛盾・不合理の根本が見えてくる。

何で、日銀が無制限に金融緩和をして、マイナス金利まで持ち出しているのか？そのカネが国内市場に回らず国際金融機関に回っているのか？逆に考えたら答えは簡単だった。国際金融機関のために無制限に緩和し、国債を発行しないからマイナス金利負担もリスクが無い。

白居易の漢詩・長恨歌の一節に『遂令天下父母心 不重生男重生女』(ついに、天下の父母の心は、男が生まれる事よりも女が生まれる事の方が重んじられた)、を思い出してふと気がついた。世界三大美女の一人である楊貴妃を謳った漢詩だが、美貌の娘を玉の輿に乗せれば、一族郎党が栄華に浴する事を知った世の親達は、男(世継ぎ)を生む事よりも、女(金蔓かねづる)を生む事の方を重んじたという話だ。

言い換えれば、国債を発行して財政出動し、潜在国内需要に刺激を与え、国内景気を盛り上げ、国民総生産(GDP)を増大させる(世継ぎ)よりも、国際金融機関にちやらちや媚を売って、(この場合チャリン・チャリンだろう)身売りまでし(マイナス金利の旨味まで付け)て(金蔓)を生み出し、ディープステートを太らせ、日本国民を疲弊させようという企みだという事だ。



更に危険な行動が、米中覇権戦争下で両国に媚を売って、天秤にかけている事だ。本当の危機とは、正にこの事で、誰の差し金か？自らの意思か？単なる思い上がりか？知らないが、スッポンポンに成りかかっている習主席を、「来年4月頃に国賓で招待したい」と何度も口にし伝えている。渡りに船で習主席は、一度啜えたら雷が鳴っても離さない『すっぽん魂』を発揮して、万難を排し来日して天皇陛下に拝謁し、握手を交わし、宮中晩餐会に臨むだろう。想像だにしたいくない、悍しい光景だ。1992年天皇(現上皇)陛下訪中が、『天安門事件隠蔽工作』に利用された事のこの舞を、今上天皇陛下にも負わせようとする日本破壊の謀略でしかない。

大統領選挙を1年後に控えたトランプ大統領は、スキヤンダルの払拭に追われながらも、上記の情報は逐一把握しているだろうから、側近やディープステートとの連携をとりながら、米中対立構造は(中国共産党潰しの)軸足を外すことはないと思われる。これにも我等の宰相が一枚加わっているとしたなら、したたかな政治家に成長したものだと思われざるを得ない。(勿論、支持などしない)何故か？

第一次政権放棄を思い出してみよう『ドタキャン』という奥の手を持っているからだ。





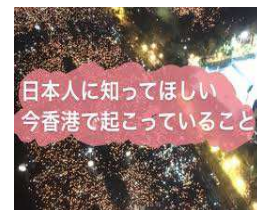
# 激動の年も暮れ…

激動の年も暮れ…ようとしていますが、未だまだ何が起こるか分からない。一寸先は闇。香港の区議會議員選挙で民主派の圧勝と、米議会上・下両院議員ほぼ全員一致の決議を踏まえ、トランプ大統領は、(11月27日)香港人権法案に署名したと報じられた。これは、約束破り(返還後50年間現状維持)の中国共産党への強烈な牽制だ。

命がけの国民運動が勝利をもたらしたものであると、香港市民の勇氣と良識ある行動に絶賛の拍手を送りたい。しかし、これで終わりではなく、新たな始まりと市民達は捉えているだろう。来年1月11日には台湾総統選挙が控えている。香港市民の反中国・自由と民主主義を守ろうとする風の流れは、現台湾総統の蔡英文氏の追い風になっていて、順当に再選を果たせるだろう予測が大半だが、2連敗を喫しては、メルトダウンを起こしかねない点に注目したい。

反中をスローガンに、結束を高めつつある香港と台湾の世論とは裏腹に、『首を洗って待っているだけと云うのが、韓国の文政権』という構図が、マンガチックで笑えない現実でもある。韓国の国民も此処に来て、否応なしに自国政府の『嘘・プロパガンダ』に気づき始めている。

<https://www.youtube.com/watch?v=jMy3oTWdCEU> どうなった?「タマネギ男」



気付くのが遅すぎて、経済状態がガタガタになり、政権もグラグラ・グタグタになってどうなるのかは来年の課題。(歴代の韓国大統領は、辞めたら…行き先は!) 私は、反日を標榜する国の政府や人は徹底批判しますが、親日でなくても、ノンポリであっても、その国の反日でない国民は批判の対象ではありません。最も忌み嫌い、卑下・批判するのは反日日本人と反日帰化人、それと似非保守です。

反日日本人と反日帰化人の得意技は、ダブルスタンダードとブーメランですから、言行を観察すれば直ぐに分かります。似非保守も、自称保守を標榜しながら直ぐにボロを出しますからバレバレです。気張って保守など標榜しないのが正解です。

ちなみに、ボロは『馬のウ〇コ』ですから、臭いでも嗅ぎ分けられます。要注意!

今号は、年末だというのに政治批判記事ばかり多くて、例の『七人の侍プロジェクト』はどうなったの?と、ご心配頂ければありがたいです。先ずは心の準備(心構え)はOKですか?

営業の古典的法則(AIDMAの法則)に従えば、A(Attention)注意=商品知識を身に付ける事から始めるために、自分自身で使って実体験(体感)をし、その感動を相手に伝える事ができるよう準備することが第一です。試食品・試乗車が販売ツールとして有効なのはその為です。七人の侍はお客様ではなく、販売する側ですから試食品・試乗車を、メーカーから仕入れる事から始めなければ、何も始まりませんが、それ以前に『何のために、七人の侍プロジェクトに参加するのか、しなければならないのか?』の心構えが出来ていなければなりません。

年金・所得・売上倍増計画を実現し、『経済的に豊にするため』自分自身とお客様の『健康に寄与するため』同じ考えを持った人達との相互扶助によって『共存共栄の結束をもつため』等不安定・不確実な時代を、安定的・確実に積み上げようというプロジェクトだと云う事です。



機が熟せば一気に雪崩れ込むのが自然の法則でもありますから、全くもって慌てません。鳴くまで待とうホトギス(不如帰・杜鵑・時鳥)と云った家康の心境です。

云うまでもなく、日本は47都道府県に仕切られていて、そこに1億2千万人が生活しています。世代別・性別・人口分布は統計局の資料をみれば一目瞭然で、販売する商品をどの層にアプローチ(潜在需要客と)するか、考えるだけでもワクワク感が湧き上がって来ます。ワクワクしながらも、(イジイジしながらも)慌てず騒がず泰然自若としているのは、各都道府県に一人づつ七人の侍がいる体制が目標で、七人の侍組がx7組=49人の侍を第一段階の目安にしているからです。当然! おいそれとは行きません。3年・5年・10年掛るでしょう、だから慌てません。

今は、千人・1万人以上の従業員を抱える大企業でも、創業時は数人からはじめています。販売する商品も、最初の一個から、初めてのお客様から始まります。営業マンにとってこの最初の一個を買って頂いたお客様は、生涯忘れられないお客様となるでしょう。Pure/Thai マッサージ店に来店された最初のお客様は、台湾人の方でした。その方とは閉店までお付き合いが続き、今後もなんらかの関係ができるでしょう。ビジネスから人間関係ができ、やがて信頼関係にまで昇華できれば、新しい展開にまで発展する可能性(感動)が生まれて来ます。

去年の9月世界中を感動させた『洞窟救出作戦』の映画が封切りされたので、観て来ました。

[https://www.youtube.com/watch?v=mekFRdI\\_FIM](https://www.youtube.com/watch?v=mekFRdI_FIM) The CAVE

